

令和6年度 入 田 中 学 校 総 括 評 価 表

重点課題		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見	
小規模校の利点を生かして、きめ細やかな教育を実践する。	①細やかな指導を行い、わかる授業の展開をする。 ②「思考力・判断力・表現力」や「情報活用能力」の育成を図る。 ③学習習慣の定着を図る。	評価指数	評価指数の達成度	総合評定	家庭学習の時間が少ないのが気になる。課題の提出は終わっていても、家庭学習を習慣づける必要があるのではないかと。 タブレット端末の活用頻度が高いようなので、継続してほしい。
		①学校の授業がわかる・わかりやすく工夫した授業をしてくれていると答えた生徒と答える生徒が75%以上である。 ②話を聞き考えている生徒、質問したり調べたりする生徒は75%以上である。周りの人に考えを伝える生徒は60%以上である。 ③家庭学習の習慣が身についていると感じている生徒は75%以上である。	①学校の授業がわかると答えた生徒が80%以上であり、わかりやすく工夫した授業をしてくれていると答えた生徒は90%以上もいた。 ②話を聞き考えている生徒は80%を超えているが、質問したり調べたりする生徒は60%程度に留まっていた。また、考えを伝えることはさらに低く50%程度である。 ③家庭学習の習慣が身についていると感じている生徒は57%、保護者も72%と昨年度より向上している。	A	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 細やかな指導を行うことができ、わかる授業の展開、学力向上に向けて実践ができている。 話を聞き、考えている生徒は90%を超えているが、考えを伝えることについては低い傾向がある。	
		①全国学力学習調査、ステップアップテスト等の結果を分析し、実態に即した授業計画、個別指導を行う。 ②タブレット端末を活用した授業を行い情報活用能力の育成を図ると共に、情報を元に思考判断し表現する活動を取り入れる。 ③学習習慣の定着を図るために、生徒が学習計画を立て学習時間の振り返りができるチェックリストを配付し確認する。	①各テストの結果から学力向上計画を作成し、実態に即した授業を計画し実践した。 ②タブレット端末を活用した授業を継続した。生徒はタブレットを活用した学習が定着し、表現する活動にも取り組む機会が増えた。 ③定期テストに向けて学習計画チェックリストを配付した。教員だけでなく保護者も家庭学習についてチェックできるように働きかけが必要である。		
生徒の人権や個性を尊重し、豊かな心を育成する。	①人権教育や道徳の時間を要とし、学校教育全体で美しく豊かな心の育成を図る。 ②いじめや差別を許さない強い意志と実践力を備えた生徒の育成を目指す。 ③学校生活を楽しみ、自己有用感を感じることができるようにする。	評価指標	評価指数の達成度	(評定)	あいさつを自らする生徒が中学生になると減っている、小学校からのよい習慣を継続して根付かせていけることを願っている。
		①道徳や人権問題などについてよく指導していると答える生徒・保護者が75%以上である。 ②いじめのない学校や学級づくりをしようとしている、相手のことを思いやって話したり、場面に応じて言葉遣いに気をつけたりしていると答える生徒・保護者が75%以上である。	①道徳や人権問題などについてよく指導していると答える生徒は87%・保護者は89%である。 ②いじめのない学校や学級づくりをしようとしていると答える生徒は83%・保護者が89%である。相手のことを思いやって話したり場面に応じて言葉遣いに気をつけたりしていると答えた生徒は86%、保護者は89%と昨年よりは少し下がっている傾向にあるが、75%は超えることができた。 ③学校が楽しいと答えた生徒は70%、自分にはよいところがあり、周りの人の役に立っていると答えた生徒が53%である。	B	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 普段の授業だけでなく、学校全体での人権全体学習を年間3回以上行うことができた。 友達のいいところさがしなどのハートフルウィークを設定し、生徒の個性のよさを感じられるような場面設定ができている。 外部指導者を招いて自己肯定感を高めるような学習を行うことができた。	
		①年間3回は人権全体学習を計画し、人権感覚を養い、実践意欲を育てる。 ②相手を思いやって話したり、場面に応じて言葉遣いに気を付けたりできるように意識して生活できるように委員会などで啓発する。 ③学校生活の係や委員会活動を通して自己有用感を感じることができるように言葉がけをする。	①年間3回は人権全体学習を行うことができた。 ②友達のいいとこさがしやふわふわ言葉・とげとげ言葉発表などのハートフルウィークを年間3回行うことができた。 ③学校生活の係や委員会活動、行事の担当など役割を果たす場面が多く、人のために活動する場面設定と言葉がけがたくさんできた。		
地域に密着して教育の充実を図り、将来の地域を担う人材を育成する。	①幼稚園・小学校・地域と協働して取り組む行事の充実と推進を図る。 ②地域の魅力に触れたり、地域の方と交流したりする機会となる活動を充実させ地域への愛着や誇りを育む。	評価指標	評価指数の達成度	(評定)	オリエンテーリングや職場体験などの以前からある行事の精選・充実を図り、実施していることに感謝している。
		①学校の運動会・授業参観・文化祭等の行事は充実していると答える保護者が75%以上である。 ②地域の魅力に触れたり、地域の方と交流したりする活動後の感想文に地域に対する愛着や誇りを育むとができたか	①学校の運動会・授業参観・文化祭等の行事は充実していると答える保護者が89%であった。 ②地域の歴史について学んだり、今後の入田町について考えたりするために、地域の方に教えていただくことができた。ゴルフ実習が楽しかった、防災について地域のことを考えることが貴重だったという意見があった。	A	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 入田町ならではの協働して取り組む行事に参加する中で、生徒にとってより効果的な方法を考えて実践できた。職場体験学習や防災学習など充実した内容で開催することができた。	
		①協働して取り組む行事の内容を見直し、効果的な方法や内容について検討する。 ②地域の魅力に触れたり、地域の方と交流したりする機会を増やす。	①協働して取り組む行事（避難訓練・人権教育交流会・文化芸術体験・運動会など）の内容を見直し、効果的な方法や内容について検討できた。 ②職場体験学習で地域にある事業所をお願いすることができた。また、防災学習やゴルフ実習を取り入れ入田町ならではの活動を行うことができた。入田についての学習を行った。		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった